

## ■診療報酬改定影響が腹膜透析 (PD) と血液透析 (HD) 併用患者に

PD と HD の併用患者から、事務局へ次のような相談が寄せられました。

これまで片道 2 時間かかる A 県で PD を、地元 K 県で HD を受けていました。  
突然、これからは地元 K 県で PD も受けるようにと言われましたが、ここは PD 機器が異なるため入院して新しい機器の訓練に臨まねばなりません。  
一方、PD を受けていた A 県で週 1 回の HD を受けるとなると、通院できるか体力に自信がありません。どちらにしても心身の負担が大きく困っています。

背景には、今年 4 月に改定された診療報酬の影響が挙げられます。その改革とは、PD と HD を併用している場合、「在宅自己腹膜灌流指導管理料\*」の算定ができる医療機関を一か所にすることが明確化され、厳格になったものです。

全腎協では、今回のケースを含め、指導管理料の算定については、一律に算定不可とするのではなく、患者の個々の生活実態をみて複数の医療機関での算定を認めるべきと考えます。

当件を含め、PD と HD 併用患者で困っている事例が他にないか、改めて腹膜機器メーカー各社と連携し、実態を集めて厚労省と交渉する準備を進めています。県組織にて、併用患者からの困難事例など寄せられたときには、全腎協へも是非ご連絡ください。

\*当管理料を算定している患者は、同施設で週 1 回を限度に人工腎臓の算定ができますが、別の施設で人工腎臓または腹膜透析を受けた場合、当管理料は算定できないことが明確化されました。

## ■2013 年 12 月末の透析患者の現況が明らかに

6 月 12 日から 15 日にかけて、神戸で日本透析医学会総会・集会が開かれ、2013 年 12 月末現在の透析患者の現況が報告されました。

学会によると、透析患者総数は 31 万 4180 人 (前年より 4173 人増)、導入患者数は 3 万 8024 人 (前年より 31 人減) でした。

導入患者における原疾患の第一位は、糖尿病性腎症 (前年より 0.4%減の 43.8%) で、糖尿病性腎症の割合はこの数年ほぼ横ばいで推移しています。

平均年齢をみると、全患者で 67.20 歳 (0.33 歳増)、導入患者は 68.68 歳 (前年 0.23 歳増) でした。腎硬化症を原疾患とする導入患者の平均年齢では、高齢化を反映して最も高く 74.6 歳でした。

透析スケジュール別では、夜間透析は全患者数に占める割合は 13.2% となり前年度より 0.3% 減少し、在宅血液透析患者数は 461 人 (68 人増)、腹膜透析患者数は 9245 人 (前年度より 0.2% 減) でした。なお、最長の透析歴は 45 年 7 か月でした。

## わが国の慢性透析療法の現況

2013年12月31日現在

施設数	4,264施設	(26施設増)	0.6%増)
設備 ベッドサイドコンソール	128,016台	(3,013台増)	2.4%増)
能力 同時透析	126,145人	(2,870人増)	2.3%増)
最大収容能力	421,755人	(7,460人増)	1.8%増)
慢性透析患者	314,180人	(4,173人増)	
昼間	263,109人	(83.7%)	
夜間	41,365人	(13.2%)	
在宅血液	461人	(0.1%)	
腹膜透析	9,245人	(2.9%)	
HD、HDF等とPDを併用している患者数	1,900人		
腹膜カテーテルを残している洗浄患者など	293人		
腹膜透析を新規導入し、年内に脱落患者数	161人		
導入患者数	38,024人	(31人減)	0.1%減)
死亡患者数	30,708人	(2人減)	0.0%減)
導入患者の原疾患			
1. 糖尿病性腎症	15,837人	(43.8%)	
2. 慢性糸球体腎炎	6,777人	(18.8%)	
3. 腎硬化症	4,701人	(13.0%)	
人口100万人対比	2,468.1人	(36.9人増)	
最長透析歴	45年7ヶ月		

日本透析医学会調べ

### ■岩手、福島、宮城、兵庫の腎友会が 日本透析医学会市民公開講座で発表

同学会の集会では、6月15日に市民公開講座「巨大災害に立ち向かう透析患者の取り組み」も開かれました。

講座では、東日本大震災の被災地腎友会から、島崎至岩手県腎臓病の会副会長、岡部茂福島県腎臓病協議会事務局長、邊見雄見宮城県腎臓病患者連絡協議会副会長が招かれ、震災当時の様子や現在患者が置かれている状況を報告しました。また、兵庫からは、浅野兵庫兵庫県腎友会事務局長が淡路阪神大震災以降の腎友会の取り組みについてそれぞれ発表しました。